

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1971600174
法人名	有限会社長沼工業所
事業所名	グループホームふうりん
所在地	〒 400-0222 山梨県南アルプス市飯野2300-1 電話番号 055-280-8305

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成20年12月1日

【情報提供票より】平成20年10月8日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8人	常勤	7人 非常勤 1人 常勤換算 3.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	0 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	■有(96,000) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有() 有りの場合 □有 ■無 償却の有無 □無			
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 0 円			

(4) 利用者の概要 平成20年10月8日 現在

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大芝医院、岡部歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年11月15日

市街地から少し入った静かな住宅地の中にある木造平屋建てのグループホームである。周囲には、果樹園が広がり、広々としたホームの庭は菜園、花壇、鶏小屋が在り、利用者が思い思いの場所で過ごしている。居室前の廊下やリビングも広く、日当たりがよい。事業主を始め全スタッフは、利用者主体の支援と言う強い考えを持って、支援が行われており、利用者の表情も穏やかで明るい。「地域の中のホーム」を目指し、近隣住民とのコミュニケーション作りに努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型のグループホームとしての理念を、簡潔に示すように改善の指摘があったが、理念として掲げた全文が、ホームの宝と受け取っており、ホームとしては、改善の必要なしと結論付けた。食事を楽しむため利用者と同じ食事を摂るよう指摘があったが、介助のため同時に食事を摂れないが、食事を楽しむ支援はされていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、全職員で検討し、管理者が作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 区長、副区長、市担当職員、利用者、家族、地域住民、施設長、職員、駐在所員などの出席で、通常二か月に一度、開催される。議題としてホームの事業や、事業計画の報告、外部評価結果の報告、また利用者の日常の様子を説明し、認知症についての理解を深める内容であった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会はないが、運営推進会議や家族来訪時に、意見や要望を気軽に出せる関係作りに努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に入会し、地域のお祭りや防災訓練に参加している。ホームからはホームの情報誌を配布し、利用者の散歩時に近隣住民と顔見知りになるよう努力している。

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム ふうりん

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書に記載されている運営方針と基本姿勢の文章を、ホームの理念として、受付の窓口に掲示してあるが、地域密着型のホームの在り方は記されていない。また、文章も長文であり、掲示場所も目に付きにくく、来訪者などに分かりづらい。	○	運営方針、対応の基本姿勢という文章の内容は「ホームの宝」ととらえ、立派な内容となっているが、地域密着型のホームとした内容を付け加えた上で、もっと分かりやすく端的に理念として明示することが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	第4土曜日、施設長参加のもと、ケアカンファレンスを兼ねた職員会議を開催し、その場で、ホームの理念の確認を行っている。また、日々の支援で理念に基づき、利用者から笑顔がもらえる一人ひとりに合った支援をする様、全職員が心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事予定の情報を得てお祭りや防災訓練に参加している。ホームの納涼会に近隣住民の参加があるが、日ごろ散歩のときや畑仕事の時などに声をかけてもらっている。ホームの情報誌を地域に配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で評価に取り組み、管理者がまとめた。前回の改善点、理念の端的な表現については、理念の全文をホームの宝として、改善は考えていない。また、職員が利用者と同じ食事を摂る点については介助のため不可能とした。改善計画の書類はない。	○	評価結果や改善計画などを記録として、残しておくのが望ましい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常2～3か月に一度、開催されているが、施設長が入院中だったため、本年度は未開催である。会議では、ホームの事業内容や評価結果の報告、認知症の説明、声かけの依頼などを議題にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は、運営推進会議には来訪するが、日常的な訪問はない。施設長が市役所に出向いて、ホーム便りを渡しながらホームの状況を伝え、来訪してもらえるよう常に働きかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員全員で、利用者一人ひとりの様子や、イベントの様子を記入したり写真を提供したものを、事務局で「チリンチリン」のホーム便りとして作成し、月一回家族に配布している。また利用者のお小遣い帳のコピーも同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口が明示してある。家族会はないが、家族との電話連絡時や来訪時には、その都度、要望・苦情・意見が言える関係作りに留意しているが、今のところ小遣いの用途についての質問があったのみである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や休職は、事前に利用者に伝え、納得してもらっているため、今までに混乱はない。新しい職員は、少しずつ利用者に馴染みの関係になってもらうよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務局より外部研修の案内をもらい、職員のローテーションの状況に合わせ順番に受講し、研修資料のコピーを全職員に配布している。研修費は、事業所が負担している。新任者は三か月をトレーニング期間とし、半月は先輩職員が補助としてついている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入し、施設長が会合に参加している。事業所が経営する他のディサービスや、多機能型施設との利用者や職員の交流はあるが、地域の他のGHのネットワークはなく、施設長は各GHへ働きかけているが、今のところネットワーク作りは出来ていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他施設からの利用希望者には、何度も施設を訪問し、馴染みの関係作りをした。また、自宅からの利用希望者は、家族と利用者が日帰り体験利用してもらったり、施設長が家庭訪問し、アセスメントを行うこともある。新しい利用者には、徐々にホームになじんでもらう努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者によって、出来ること出来ないことの差はあるが、言葉遣い・昔の風習・歌など日々の会話から職員が教わることも多い。また、ホームで実施するイベントやドライブ、温泉一泊旅行など共に楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情などから思いを把握し、利用者の希望を満たすよう、働きかける支援を行っている。特に、トイレ誘導などには気を配っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時のアセスメントを基に、本人や家族の希望や意見を取り入れ、長期・短期の介護目標を決め、介護計画を立てている。毎月の職員会議で利用者一人ひとりの変化について、全職員で話し合う。職員確認用に全利用者の介護計画表が、別冊ファイルになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期介護目標は、一か月と決めてあるが、見直しは毎月の職員会議兼カンファレンスで見直しを行っている。利用者に変化があった場合は、その都度カンファレンスを行い、見直しを行い家族に報告し了解を取っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の墓参り・選挙など、利用者の希望外出への付き添いや、かかりつけ医への受診の支援など、希望に応じて柔軟に対応している。地域より要望があれば、認知症講座の開催も考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は、内科・歯科の他、精神科の認知症専門医の協力を得ている。また、個人のかかりつけ医との連携もとれている。受診の際には、職員が付き添いの支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に一例、家族の希望により、看取りを行ったときは在宅酸素を使い、毎日、医師とナースに往診をしてもらった。終末ケアを行えたことは、利用者・職員共に満足している。終末ケアに関する記録を残してある。今年から、終末ケアについて家族や職員と話し合い、家族の同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけやトイレ誘導は、さりげない態度で誇りを傷つけない配慮がされている。近隣住民へ配布される情報誌に、家族同意の上、利用者の紹介記事を掲載している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペースは、利用者のペースに合わせた支援がされている。庭で畑の世話をする人、洗濯物を取り込む人、思い思いのことを、その人のペースで行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介助の必要な利用者が多いため、職員と一緒に食事することは出来ないが、同じ食卓に着き、楽しく話をしながら介助していた。食材には、ホームの畑で取れた野菜が使われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に一日おきに午後入浴とされているが、希望や必要に応じ、随時、入浴可能である。利用者二人で入浴を楽しむ人も居る。ほとんどが介助が必要であるがシャンプー、背中洗いのみ介助の人もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、鶏や金魚の世話、料理、配膳、洗濯干し、洗濯、洗濯物のたたみ、外出時、他の利用者の車椅子を押す、食事の嚥下体操の先導など、個々できることをしてもらい支援の他、ドライブや外食など楽しむ支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム周辺の散歩、食材の買い物の他自宅へ帰りたい人の付き添いの支援を行っている。また、ドライブで遠出をしたり、イベントに参加したり、ホームにとじこもらない配慮がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの庭のフェンスには、簡単にはずせるチェーンがかけてあるが、玄関や廊下のサッシ、居室には鍵はかけてない。利用者は、いつでも自由に広いホームの庭に出て外で過ごせる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練は、全員で参加している。ホーム独自で、年一回、火災・地震などさまざまな場合を想定した訓練を行っている。近隣住民には災害時の協力依頼がしてある。職員は救急救命法を受講している。防災マニュアルや連絡網を掲示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が立てた献立は、時々、栄養士にチェックしてもらい、栄養バランスに配慮している。利用者にあわせ、水分にとろみをつけて水分摂取を行っている。食事量・水分量のチェックはしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂や廊下は広々として、日当たりはよくホームの庭や果樹園が眺められる。リビングの壁には、利用者の絵や季節の飾りかけがしてある。浴室・トイレも広く、清潔である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、畳とフローリングが半々となっており、利用者の好みで、ベッドや布団が持ち込まれている。家具や飾りつけは、利用者それぞれの馴染みのものが持ち込まれていた。		